

# 平成23年度第1回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

## 会 議 記 録

I 日 時 平成23年6月6日（月）19：00～21：25

II 場 所 浦和コミュニティセンター第13集会室

### III 議事次第

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 あいさつ

4 委員、事務局紹介

5 議 題

(1) 委員長の選出

(2) 委員長職務代理者の選出

(3) 評価方法及び今後の進め方について

6 その他

7 閉 会

### IV 出席者

1 委員（12名）（敬称略）

委 員 長 廣瀬克哉

委員長職務代理 長野 基

委 員 猪野智久、木島好嗣、栗原俊明、高島清、野崎博行、  
延原正弘、橋本克己、林美絵、福崎智恵、三浦匡史

2 事務局（6名）

井上靖朗（政策局総合政策監兼政策局都市経営戦略室長）

三ツ木宏（政策局都市経営戦略室副理事）

西尾真治（行財政改革推進本部副理事兼政策局都市経営戦略室副理事）

中井達雄（政策局都市経営戦略室参事）

藤澤英之（政策局都市経営戦略室副参事）

鳥海雅彦（政策局都市経営戦略室主幹）

## 1 開 会

### ○事務局

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。開会前に申し上げます。

本市では、市民の方々に対し、透明かつ公正な会議運営を図り、開かれた市政を推進するため、こうした会議は、原則として公開することとしております。このため、お手元にお配りいたしました資料1「しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会設置要綱」につきましても、その旨を規定しております。また、傍聴に関する手続き等につきましても、資料2のとおり「しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会傍聴要領」を定めております。本日現時点では、傍聴人の申し出はございません。

また、さいたま市におきましては、現在、地球温暖化防止キャンペーン、また今般の節電キャンペーン等の一環として、軽装による執務、照明の照度を下げ、また室内の適温設定をしておりますので、よろしくご協力ください。

それでは、これより、平成23年度第1回「しあわせ倍増プラン2009」市民評価委員会を開催させていただきます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、都市経営戦略室の鳥海と申します。よろしく願いいたします。

なお、本日は会議記録作成のため、写真撮影と録音をさせていただきますことを、あらかじめご了承願います。

## 2 委嘱状の交付

### ○事務局

それでは、はじめに各委員の皆様方に、市長から委嘱状を交付いたします。

お手元にお配りいたしました名簿の順に、お名前をお呼びいたしますので、呼ばれました方はご起立をお願いいたします。

なお、本日、伊藤巖様、また、町田直典様からご欠席の連絡をいただいておりますので、後ほど事務局よりお渡しをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、お名前をお呼びいたします。

猪野智久様

### ○清水市長

委嘱状、猪野智久様、平成23年度しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会委員を委嘱します。平成23年6月6日、さいたま市長 清水勇人。

木島好嗣様、栗原俊明様、高島清様、長野基様、野崎博行様、延原正弘様、橋本克己様、林美絵様、廣瀬克哉様、福崎智恵様、三浦匡史様

## 3 あいさつ

### ○事務局

それでは、清水市長よりごあいさつを申し上げます。

## ○清水市長

皆さん、こんばんは。ただいまご紹介いただきました、さいたま市長の清水勇人でございます。「しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会」の委員委嘱状の交付に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

皆様におかれましては、市民評価委員会委員へのご就任を快諾いただきまして、誠にありがとうございます。また、本日はご多用のところ、第1回「市民評価委員会」にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年度から委員をお願いしている皆様におかれましては、昨年度中に、11回にわたるこうした委員会を開催させていただきまして、また12月には「市民評価報告会」にご出席、ご発表をしていただくなど、本当にご尽力をいただきましたことを重ねてお礼を申し上げたいと思います。本年度もよろしく願います。

そして、本年度新たに委員にご就任いただく委員の皆様方におかれましても、それぞれのお立場から知識、また経験を活かして、積極的に忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

さて、平成21年5月27日に、市長に就任して、ちょうど2年の折り返し地点を迎えたところでございます。私のマニフェスト「しあわせ倍増計画」の工程表ということで、「しあわせ倍増プラン2009」を策定させていただきましたが、その計画期間のちょうど折り返し地点に当たるときでもございます。

私は、この倍増プランに取り組む上での基本姿勢の一つに、「徹底した現場主義」、市民の皆様の声、また現場の声を大切にしていこうということで、現場訪問、学校訪問、車座集会、そしてタウンミーティングをやらせていただいているところでございます。そうした中でいつも、目の当たりにしているのは、本当にたくさんの市民の皆さんが子どもたち、あるいは高齢者のため、また地域のために本当にしっかりと汗を流して、ご参画をいただき、ご協力をいただいているところであります。

今回、東日本大震災がございましたけれども、こうした中でも地域のつながり、そして絆ということが改めて重要であるということが言われております。まさにさいたま市は大変市民力の高い、多くの市民の皆さんに支えられ、またご尽力をされている中で市政運営ができていく都市であると自負をいたしております。

今回、この市民評価委員会はそうした皆さんの目線で私自身のマニフェストの工程表をしっかりとチェックをいただき、評価をいただく大変貴重な場でもございます。ぜひともそうした皆さんから貴重なご意見をいただく中で、私たちとしてもさらにこの「しあわせ倍増プラン」をブラッシュアップして、市政運営の中に活かしてまいりたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いしたいと思います。また、数回にわたりこうしたご議論をいただきますけれども、さまざまな建設的なご意見、あるいは厳しいご意見も含めてお寄せいただき、私たちとしてもしっかりと受け止めて、これからの市政に反映してまいりたいと思っております。約4ヶ月にわたりまして皆様方には短期集中型でご苦勞をおかけすることになるかと思いますが、ぜひともよろしくお願い

いしたいと思います。

最後になりましたが、皆様方のご多幸ご健勝を心からご祈念をして、私のごあいさつにかえさせていただきます。皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

#### ○事務局

ありがとうございます。申し訳ございませんが、ここで市長は所用のため退席をさせていただきますので、ご了承願います。

### 4 委員、事務局紹介

#### ○事務局

それでは、これより会議に入っております。昨年から引き続きご就任いただいた委員もいらっしゃいますが、今年度第1回目の委員会でございますので、改めまして委員の皆様、そして事務局のご紹介をさせていただきたいと思っております。

その後、委員長等の選出や評価方法、今後の進め方等につきまして、ご協議をいただく予定でございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、委員の皆様から一言ずつ自己紹介を頂戴できればと存じます。恐れ入りますが、名簿の順にお願いしたいと存じますが、本日は伊藤様のご欠席ですので、猪野様より順に一言ずつごあいさつを頂戴できますでしょうか。よろしくお願いいたします。

#### ○猪野委員

皆さんこんばんは。昨年に引き続き委員を務めさせていただき猪野智久と申します。私は埼玉大学理工学研究科で修士2年をやっておりまして、太陽電池の研究をしております。環境分野、子どもの分野に大変関心を持っております。そういった分野に私自身、さいたま市に住んでいる一市民として何か役に立てればと思い、今回委員を務めさせていただいております。今年度、どうかよろしくお願いいたします。

#### ○木島委員

皆さんこんばんは。木島好嗣と申します。私は今港区の南青山に勤めておりまして、そこから帰りに直行させていただきました。実は私、さいたま市に住むのは昨年のもからということで、さいたま市に関して決して詳しいわけではないというところでございます。逆にそれまで住んでいた東京での経験ですとか、勤めている経験から外部の視点を持ってこちらの委員会に貢献できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○栗原委員

栗原俊明と申します。よろしくお願いいたします。僕は、大宮駅東口の駅前にあります、大宮駅銀座通り商店街から参りました。生まれも育ちもさいたまです。ずっと大宮駅の東口あたりにいたものですから、そういった視点から何か貢献できるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### ○高島委員

皆さんこんばんは。さいたま市PTA協議会の副会長を務めております高島

清と申します。今回こちらの委員にさせていただきまして、先般いろいろレクチャーを受けて、いろいろ資料を見せていただいた中で、ちょっと僕には荷が重過ぎるかなと思うところですが、一生懸命勉強して皆様方と素晴らしいさいたま市を作る一助になりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

### ○長野委員

どうも皆さんこんばんは。跡見学園女子大学の長野基と申します。跡見学園は、埼玉県新座市と東京都文京区に校舎がございます。こちらの方へ勤務をしながら、学生と一緒に地方自治とか行政学を研究しております。さいたま市には去年から学生が毎年夏の1週間インターンシップでお世話になっておりまして、昨年度は大宮駅の東口のまちづくり事務所でお世話になりました。どうもありがとうございます。今度の委員会にも微力ではございますが、皆さんと一緒に力を尽くして議論させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### ○野崎委員

改めましてこんばんは。昨年度より引き続き委員を務めさせていただいております。埼玉中央青年会議所、昨年理事長を務めまして、本年は直前理事長という立場で参加をさせていただいております。昨年、私も途中で替わらせていただきまして、委員を務めました。今年はスタートからしっかり委員としての職務を全うさせていただきたいと思います。いろんな形で昨年まだまだ勉強不足だった部分を今年は、より委員として意識を高めて担当させていただきたいと思います。どうぞ1年間よろしくお願いいたします。

### ○延原委員

岩槻の延原正弘です。今日欠席の伊藤さんと並ぶくらい、皆さんより相当年上で、おそらく一番うるさ型を今年もやろうと思っております。事務局の方には相当いろいろやってもらいたいと思います。どうやってさいたま市をよくするかが一番我々にとって大事なことで、市長のマニフェストを完璧に遂行させたら完璧とは思わないですが、これしか今、指標がないので、これをどの程度きちんと実行しているかを皆さんと一緒にチェックしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### ○橋本委員

橋本克己と申します。さいたま市には13年前から毎日栃木から通って、さいたま市で仕事をしています。不登校やさまざまな躰きを持つ子どもたち、青年たちの支援活動ということで、NPO活動をしています。家に帰るとさいたまは遠くに見えるのですが、その遠くから見える視点とさいたま市に入って実際に見ていることをこの会議で活かしていけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### ○林委員

こんばんは。公募で参りました林美絵と申します。中央区にございます会計事務所に勤めております。さいたま市には1年余り前から住んでおりまして、それまではずっと木島委員と同じく東京で住んでいました。何分浅学ではござ

いますけれども、今回はとてもいい機会をいただいたとっておりますので、皆さんと一緒に評価をさせていただきたいとっております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○廣瀬委員

昨年に引き続きまして委員を務めさせていただきます、法政大学法学部で行政学を担当しております廣瀬と申します。自治体の政策、自治体の経営、あるいは政策の評価といったようなことを勉強しております、またマニフェスト型自治体の政策の改革については、単なる研究というより少し運動的な意味でも関わりを持っておりまして、そういうご縁もありまして、この「しあわせ倍増プラン2009」の評価のお手伝いをさせていただくことになったかと思えます。

おそらく、こういう計画の評価というのは、計画は物差しですので、物差しの評価はなかなかできないという点で時として、もどかしかったりということもあろうかと思いますが、他方で有言実行というのは基本ですので、それをしっかりと見極めていく場として今年も皆様と一緒にやっていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○福崎委員

こんばんは。今年度から委員として参加させていただきます福崎智恵と申します。現在は、法政大学大学院政策科学研究科の修士1年で学ばせていただいています。さいたま市には北区に20年来住んでおりまして、この評価委員会では地元のさいたま市の取組を学びつつ、政策評価の実践をさせていただきたいとっております。どうぞ、いろいろ教えていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

#### ○三浦委員

皆さん、こんばんは。三浦匡史と申します。私は、昨年度から引き続き委員を務めさせていただきますが、昨年度は私が団体の代表で参加しておりますさいたまNPOセンターの理事の東一邦が当初委員を務めておりましたが、途中でバトンを引き継いで、後半委員をさせていただきました。今年度は、年度の当初から私の方が担当したいということで、参加させていただきます。元々専門は都市計画とかまちづくりでしたが、NPO活動を通じて地域参加や住民参加、市民自治のまちづくりを応援しておりますので、そういった目線でも今回の評価はいい機会をいただいたとっております。実力が伴うか心配ですが、どうぞよろしくお願い致します。

#### ○事務局

どうもありがとうございました。続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。齧島政策局長でございます。

#### ○齧島政策局長

齧島でございます。よろしくお願い致します。実は、今日こちらの10階で別の委員会をやっておりまして、大変恐縮でございますが、行ったり来たりさせていただきます。よろしくお願い致します。

○井上総合政策監

井上でございます。よろしくお願ひいたします。

○三ツ木副理事

三ツ木でございます。よろしくお願ひいたします。

○西尾副理事

西尾でございます。よろしくお願ひいたします。

○中井参事

中井でございます。よろしくお願ひいたします。

○藤澤副参事

藤澤でございます。よろしくお願ひいたします。

## 5 議 題

### (1) 委員長の選出

○事務局

それでは、次第の「5 議題」に移りたいと思います。

その前に、お手元に、資料1といたしまして「しあわせ倍増プラン2009 市民評価委員会設置要綱」をおつけしております。これは委員会の設置、組織、任期、会議等について規定したものでございます。

また、資料2「しあわせ倍増プラン市民評価委員会傍聴要領」は、この委員会の傍聴の手続き等について規定したものでございます。後ほど、お目通しいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

そして、もう一点、会議の記録の確認をさせていただきたいと思います。委員会の会議記録につきましては、昨年と同様に要約した概要ではなく、委員さんのお名前も載った形の全文表記の完全記録方式とさせていただきたいと思います。具体的には、1回の会議が終わりましたらまず事務局で会議録の案を作成いたします。それを皆様方にご確認いただき、その後、確定し、ホームページ等で公表をするという方法をとりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、議題の「(1) 委員長の選出」でございます。改めましてお手元にお配りしました、資料1「委員会設置要綱」をご覧ください。

第4条第1項におきまして、この委員会の委員長につきましては、委員の中から互選することとなっておりますが、事務局といたしましては、昨年この評価委員会の委員長をお務めいただきました廣瀬克哉様に引き続き今年もお願ひしたいと存じます。いかがでしょうか。

(各委員から異議なしとの声、拍手あり)

○事務局

ただいま、異議なしというご意見と拍手をもって、委員長選出のご了承をいただきました。

それでは、廣瀬克哉様に委員長をお願ひしたいと存じます。廣瀬様、委員長席にお着きいただきまして、委員長ご就任のごあいさつを頂戴したいと存じま





それでは、長野委員に、委員長の職務代理者をお願いしたいと思います。それでは、席をお移りいただきまして、一言ごあいさつをいただければと思います。

#### ○長野委員長職務代理者

改めまして長野でございます。微力ではございますが、廣瀬委員長の職務の代理者としての務めを果たせればと思います。よろしく願いいたします。

#### ○廣瀬委員長

どうぞよろしく願いいたします。

### (3) 評価方法及び今後の進め方について

#### ○廣瀬委員長

それでは、議題3、今日のいよいよ本題であります、「評価方法及び今後の進め方について」の議題に移りたいと思います。お手元に席上配付の資料が用意されておりますので、また、本年度から参加の委員もいらっしゃいますので、まずは配付資料について、そしてこれまでの評価の進め方等について、事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

改めまして、都市経営戦略室の中井と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議題(3)評価方法及び今後の進め方について、説明する前に、お手元に「しあわせ倍増プラン2009」を配付しております。初めての委員さんもいらっしゃいますので、このプランの「概要」と「評価検証事業」について簡潔に説明させていただきます。

「しあわせ倍増プラン2009」は、先程の清水市長のご挨拶にもございましたとおり、市長が選挙におきまして、市民の皆様へお示ししましたマニフェストをベースに、平成21年度から平成24年度までの4年間に、本市が重点的に取り組むべき施策やその工程表をまとめたもので、平成21年11月に策定し、その達成に向けまして全庁を挙げて取り組んでいるところでございます。

この倍増プランは、新たな条例の制定、行財政改革、高齢者や子育て支援策、また環境やまちづくり等、さまざまな分野から139の事業で構成されておりまして、事業ごとに数値目標、取組内容、4年間の事業計画(工程表)が掲げられております。

次に、倍増プランの「評価検証事業」について、資料3をご覧ください。

まず、市としての自己評価・内部評価を実施し、そして市民評価委員会による外部評価を行い、市民評価報告会を実施するという流れは昨年と同様でございます。ただし、昨年の委員さんからのご指摘等もあり、具体のスケジュールについては時期を前倒し、報告会は10月に開催する予定でございます。

続きまして、お手元でございます、クリップ止めの厚めの資料「個別評価シート」につきまして、説明させていただきます。

基本的に昨年使用したシートと同じでございます。左側半分が倍増プランの数値目標等を記載した事業計画等であり、右側半分が平成22年度の事業の内

部評価でございます。

一番上の段、事業の「達成度」欄がございます。「進捗度」を記載し、事業の取組により「加点・減点」要素を加味し、総合的に評価した結果を、10点満点で記載しております。

特に新たな委員の皆様には、事前にレクチャーを差し上げたところでございますが、この達成度は事業の進捗度にあわせて「a」～「d」の4段階の評価に加点・減点要素を付与し評価するといった評価方法は昨年と同様でございます。

プランの全体概要、評価検証事業、個別評価シートについての説明については以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

### ○廣瀬委員長

どうもありがとうございました。ただいま事務局からプランの概要、評価検証事業の流れ、かなり分厚い資料となっておりますが個別の評価シートについて説明がございました。この説明につきまして、何かご質問がありましたら、お願ひいたします。よろしいでしょうか。

それでは引き続きまして、これを使ってどう評価していくかということを議論してまいりたいと思います。今日は事務局の方で席上配付資料として、たたき台をご用意いただいたと聞いております。このたたき台、それから資料の4-3総括表、資料5日程表、これは日程とともにいつ、どの項目を扱うかということも素案が入っております。これらを準備していただいておりますので、事務局からまず説明をお願ひいたします。

### ○事務局

それでは、評価方法及び今後の進め方についてご説明をさせていただきます。恐縮ですが座らせていただきます。

席上配付資料をお配りしておりますが、今年度の評価は、先程から委員長からもありましたとおり、プラン2年目の評価ということになりますので、この委員会で評価をしていただくのも2回目という形になります。去年は評価のプロセスを経た上で、最後報告書の中に委員さん方のコメントもいただきましたけれども、やはり改善すべき点があるというご指摘がございました。

ポイントといたしましては、昨年度は評価として1回目ということで、139項目全部を相当な時間をかけて1つずつチェックをしていただきました。その過程には、当然プラスの面もあったと認識しておりますが、ただ一つ一つの議論が、特に最後の方はスケジュールの関係もあり、深まらないまま終わったのではないかというようなご意見、ご指摘をいただいております。

それとともに、内部評価と外部評価自体、達成度の評価については大きなずれがあったということではなかったものと考えております。全体の内部評価としては6.91が平均点でありましたけれども、外部評価の方でも評価いただいたのは6.84でありました。当然、一つ一つの項目の中ではやや内部評価の方が甘かったと、きちんとチェックをいただいた中で、達成度評価としてはこの程度だろうというご評価をいただいた部分はありますが、トータルとしては内部と外部の大きな格差があるということではなかったと理解をしています。

そういったこともございまして、全体的なコンセプトといたしましては、本年度は達成度評価について内部評価を外部評価としてチェックをしていただくということはそれはそれとして、それぞれの項目について、もう少し、目標、あるいは事業手法がこれでいいのかどうか、あるいはもっとこういうことをやるべきではないかとか、同じやるにしてももっと目標を高く持つべきではないかといった、実質的なところについてもご議論をいただけるようにしてはどうかと考えております。

それから、昨年は特に139項目全てを評価するというところで、一つ一つ項目を細かく刻んで評価をいただきましたが、議論を深めていくということになりますと、一つ一つの項目というよりも、もう少し大きなくくりで説明をして議論していただいた方が方向性としていいのではないかと考えています。大きな考え方は今申し上げた感じであります。

ここからは紙の説明に入りますが、いくつかの論点を箇条書きで書かせていただいておりますけれども、1点目は達成度の評価基準であります。先程、中井の方からご説明いたしましたように、「a・b・c・d」の大きなくくりプラス加点・減点ということで0点から10点までの評価を昨年、内部評価でも外部評価でもしております、22年度分につきましても内部評価は昨年度と同様の形でさせていただいております。これにつきましては、事務局といたしましては経年的な変化も分析するということがございますので、できれば同じ形で実施していただければと思っておりますが、これについてどうかというのが今日の一つの論点かと思っております。

それから2番目。先程も申し上げましたが、もう少し深掘りした議論をするときにどうするかということで、今申し上げたような内部評価、外部評価という、達成度評価を2段階のチェックで評価するという意味では、事務局側としては全事業について内部評価がどうであったかという外部評価のチェックはやっていただきたいと思っておりますが、ただ昨年度と同じように全事業について所管から説明をしてヒアリングをして決めていくということになりますと、それだけで時間がかかるということもございますので、委員会で所管からヒアリングをしてご議論いただく項目については、若干対象を絞り込んでやってはどうかと考えております。そういったことで、昨年はなかった資料であります、今回資料4-3というのをご準備させていただいております。これは、現時点での案でございますので、今日のご議論を踏まえて様式の変更、あるいはこの資料をそもそも使うかどうかのご議論もあろうかと思っておりますけれども、案といたしましては、達成度評価の方は、当然お手元に個別シートもございますのでそちらの方もご参照いただければと思っておりますけれども、基本的に総括表を使いながらある程度簡略的に内部評価の状況をチェックしていただく。それで、それはそれとしてというのは言い方が適切かどうかはありますけれども、いくつかヒアリング対象という形で項目を準備させていただいておりますが、毎回毎回、次回の委員会のときにどの事業をヒアリングするかということを経営部の最後にご議論して決めていただいて、その上で次回所管からヒアリングという形で説明した上でご議論いただく。それについては、その上で達成度の評価を

いただくことになりまして、また委員長のご挨拶にもありましたように、議論の過程で定量的というよりは定性的な部分でいろいろご議論いただいた点については、我々が行政を進めていく中で非常に参考にさせていただけるのではないかと考えておりました、こういったものをたたき台としてお配りさせていただきました。

それから、資料5を一番下におつけしております。これは、今申し上げたような形でやるとして、仮にどういう感じになるかということで、ヒアリングの対象になる項目を事務局の方で、プランの重点項目や昨年度委員の皆様の方で重要度評価ということで「A・B・C」の3段階で重要度評価をつけていただいておりますので、「A」の相対的に重要という評価をつけていただいた委員さんが多かったものの中からある程度ピックアップをしております。さらに、一つの項目だけではなく、例えば複数の関連する、行革とか、あるいはみどり倍増のプロジェクトとか、あるいは雇用倍増だとか、複数の項目の中で一つの政策目的をやろうとするのがありましたら、そういったものに関してはある程度その中に一つ、二つ、そういった重点項目があれば、そのプロジェクト全体について、ヒアリング対象という形で所管の方から説明させていただいて、ご議論いただくような形にしてはどうかというようなことで、ある程度個別事業名という形にはなっておりますが、一事業をある程度幅広い感じでヒアリングの対象をたたき台としてピックアップさせていただいております。やり方についてご議論いただいて、それでも今年度そういう方向で評価を進めるということでありましたら、今日その後、特に第2回にどの事業をヒアリングするかをご議論いただければと思っております。

それから、席上配付資料の3番目ですが、重要度評価でございます。これは昨年度議論の中でこういった形で評価をしてはどうかということで、追加になった項目ですけれども、これにつきまして、資料4-3の中で一応項目を準備しておりますが、今年度も同じような形ですかどうか。こちらは達成度評価と違いまして、必ず毎年しなければならないというものではないかと思っておりますが、ただ昨年度と情勢が変わったところ、特に今回の震災を踏まえて危機管理をどうするかといったところは、当然昨年度と比べて重要度の考え方が違ってきているかと思っております。あるいは項目としてもう達成してしまったので、重要度が下がっているというような部分も出てくるかと思っております。そういったような影響を把握する、あるいは今回新任の委員の皆さんもいらっしゃいますので、今年度も重要度評価をしていただくかどうかということもご議論いただければと考えております。

4番目は、後ほどで結構かと思っております。今年度の評価委員会でご議論いただく中で、一番初めに整理しておいた方がいいのではないかとということでまとめさせていただきました。私からの説明は以上でございます。

#### ○廣瀬委員長

どうもありがとうございました。いくつかにわたって論点があるということで、それをこのたたき台で整理をしていただいておりますので、この順に順次検討をしていきたいと思っております。

まず、評価基準ということですが、達成度についての評価基準の取り方ですが、この総括資料を見ていただいても、左の方に内部評価と昨年度委員会が外部評価として行った達成度評価が一覧になっております。この資料4-3の各ページの左の方ですね。それから、昨年度の報告書でどういうふうに表現をしたかについては、A4版の冊子で配付されております市民評価報告書、今年の12月に出されたものですが、これの12ページのところには各章立てと申すのでしょうか、ローマ数字の大項目で全体をくくったものについてコメントを加えましたが、個々の事業については13ページ以降のような一覧表のような形で表現をしております。達成度はその表の真ん中のところで、内部評価が「b-8」であったところ、市民評価の方は昨年の評価としては、例えば一番上のI-1でいえば、「b」で、点数としては7点や8点をつけたばらつきのある点数になりましたので、平均点で7.3ということになりました。そしてその達成度評価の中におけるこの委員会の議論の場に出たコメントの中で主要なものがここに記載されている。ですので、この形式、この評価基準、これを今年度も継続をするのかどうかということをもまずは検討する必要があるかと思えます。この点につきましてご意見がありましたら、あるいはまたご意見の前に昨年度の評価について、もう少し内容に踏み込んで確認したいような点がございましたら、出していただければと思います。

#### ○林委員

昨年は少し大変だったというようなことは聞いているのですが、こうしたらよかったのではないかというような意見はありますでしょうか。

#### ○廣瀬委員長

継続の委員もいらっしゃいますので、後で補足していただきたいと思えますが、私の把握している主要なポイントで言いますと、一つはこの139項目全部を対象にして、かけた時間には当然、差はあるのですが、基本的には同様に扱っていくというやり方が適切であったのか、例えば、平成21年度においては準備段階ということで、計画の上でも準備となっていて、実際にもその準備が行われた。これは言ってみれば走り出す前の段階で、ある程度その下準備は整えていたということですので、予定どおり進んだという評価以外は評価のしようがないといえられない。だけれども他の項目と同様に、とにかく139項目は全部見ようということでやりましたが、その量的に大変だった部分を実質的な評価があるものに絞り込むやり方もあったのではないかというような議論をしたことが1点です。

それから項目によって、特に事業番号に枝番のついているものが結構ありますが、対象や目的においてはかなり共通性が高いけれども、実現手段は多様にあるので、時として所管を違いながら、比較的共通した目的に向けてたくさんの事業が重なって、並行して走っている。全部が同じ比重で進まなくても、場合によってはその中の有効性の高いものが進んで、それ以外は進まなくても、全体としては目的は達成できるというものもあるかなということを感じつつも、1項目ずつで評価しましたので、そのところは工夫の余地があるかと。あるいは同じ比重をかけて評価するよりは、くくって評価するというのもあ

るかなというような議論もあったかと記憶しております。こういう点をもう少し絞りこんだり、くくったりすることによって、同じ評価時間を使うのであれば、より効果の高いところに重点的に注意を向けられるのではないかと。そういう種類での大変さ、労力のかけ方が一番効率的、有効であったかということについては、ちょっと工夫の余地があったのではないかという議論があった。それが一番大きかったのではないかと。継続の委員さんから何か継続の点、補足すべき点がございましたらお願いしたいと思います。

### ○木島委員

今の林委員のご質問の中で、お答えの方は2番の方が中心になったかと思いますが、それも参考にさせていただければと思いますが、評価基準のところ逆で昨年やられた中で思うところがあればアドバイスいただきたいですが。

### ○廣瀬委員長

これについて私自身としては、各項目の進捗評価をこういう考えでやろうということの共通理解ができるまでにある程度時間が必要であった。なので、最初の数回にわたる議論の中で、だんだんつまりこの「a・b・c」とかそれがより進んでいる、やや劣っている、この辺の評価の仕方、目のつけ所についての共通理解ができてしまえば、あとは比較的あまり大きな差はなく順調に、比較的効率的に進んだかなと思いますが、そこにたどり着くまでは少々議論をしたり、それぞれの考え方について議論をしたりすることが必要でありました。そのところ、今年度から参加の委員さんもいらっしゃるから、それを今年度の委員会でそれをどう全員で共有するかが一つの課題だと思います。

「a・b・c」、そして点数をつけるという方法自体に大きな問題があるという論点は、昨年は基本的にはなかったかなと、私は受け止めていますが、違う見解もあるかもしれませんが、何かありましたら。

### ○事務局

私も実は昨年参加しておりませんで、今年度からでございますので、適当でないかもしれませんが、達成度評価というのは、プランの工程表を是としてそれをきちんとやったかどうかという評価でありますので、そもそもプランの目標がどうか、もっとこうすべきではないかという評価は、この「a・b・c・d」の評価軸の中には入らないわけです。あくまでプランの工程表で書いたことをきちんとやったかどうか、きちんとやれていれば「b」、プランで書いた以上のことをやっていたら「a」、プランで書いたことをやっていなければ「c」という評価になります。

そこが議事録を拝見しておりますと、昨年の第3回ぐらいまでは、委員さんの中である程度共有がされていなかった結果として、つけられた評価にばらつきがあったと理解しておりますけれども、達成度評価ということである程度割り切って評価をしていく中で、だんだん委員の皆さんの評価が収れんしていった。ただその中でいろいろ漏れている部分がありますので、その部分を重要度評価という形で昨年度は補ってご議論をいただいたと思います。

ただし、どうしてもそういった議論になりますと定量的な評価よりも定性的な評価になっていくところがあるかと思いますが、全部を「a・b・c・d」

とかでつけられるかはわかりませんが、この委員会の中でそういう議論を、この達成度評価と離れたところでご議論いただくやり方としては、事業を絞り込めばそういった議論もできるのではないかということで、こういうたたき台をつくらせていただきました。

#### ○木島委員

特に別に問題があると思って聞いたというよりは、去年どうだったかを聞いたかったので、委員長のお話を伺うと、すごく皆さん慣れている方法だと思うので、問題ないかなと思います。

#### ○福崎委員

私も数値によって評価をする点については問題ないかと思います。委員の皆さんにお聞きしたいのですが、この点数の評価をつける際に、評価のつけ方の厳しさということで一つの基準になるかと思うのですが、例えば昨年度のコメントでこのようにした方がいいというような提案があったかと思うのですが、その提案に対して、今年の活動が対応していたか、きちんと応答されていたかどうかということは評価としては厳しく、していない・している、YES・NOの判断ですね、そのような形で点数はつけられますか。例えば、昨年の市民評価報告書13ページI-1のコメント欄に一つ提案がありますが、「しあわせ倍増プラン自体の取組を市民に知らせる工夫がほしい」、例えばこの工夫がほしいという提案が昨年の委員会の方からあって、今回具体的に何か工夫をしましたというような結果がなかった場合、評価としては下げますか、それともあくまでプランとして「マニフェスト検証大会を毎年開催」ということで、開催がされていれば評価は高くつけますか。そういった基準をある程度、皆さんと共通の理解が必要だと思うので、コメントに対する返答についてお聞きしたいのですけれども。

#### ○廣瀬委員長

それは、昨年にはなかった要素ですから、それは2年目になって初めて出てくる要素ですから、それをどう扱うかというのは、まさにこの委員会としての方針を統一できるのであれば議論をした上で統一して、それでやっていきましょうということを確認するのがよろしいかと思います。

昨年について言いますと、おおむね「a・b・c・d」のところでもまず大きく予定どおり進んだのか、さらに進んだのかあるいはそれより劣ってそこまで到達できなかったのかということを見ていきまして、いろいろな加点要素については量的な部分のみならず、質的な要素やそういうことをある程度加味して、「b」であれば予定どおり、そのままであれば7点がつくわけですが、それでも、「b」だけでもやり方の上での工夫は評価できる点があれば加点して8点とつける。「b」とはいえるものの、もうひと工夫本来は必要であったのではないかというような要素があったり、あるいは数値目標に対する到達のかけ方が、「c」にするほどではないけれども若干届いていない場合には6点にする、というところでやっておりました。そういう要素の一つとして、昨年のコメントに対してしっかりとこたえられていることは加点要素になる、あるいはこたえていないことが、一応「b」という範囲でやっているとしても7点はつ

けられない、6点ということになる。そういうことが昨年度との継続性を考慮すると、それぐらいの範囲では反映の余地はあるのではないかなという感触は持っております。

またもう一つは、去年は評価を頭から順次やっていたわけですが、終わりの方の項目になりますと、秋も深まった段階でやっておりますので、その時点で言われてももう22年度に反映は難しいというのがありました。それもあったので、もう少し早くやるべきですというのが、このI-1の二つ目の意見です。ですから、今年は12月から10月に繰り上がったものの、まだ9月まではちょっと難しかったということなのですけれども。ものによっては今年度の評価の中ですぐに扱うとちょっと無理というものもありますので、そういうことの配慮は必要なかと思えます。

#### ○福崎委員

翌年にこたえられるものとこたえられないものということでは、配慮が必要だと思います。

#### ○延原委員

これは去年から何回も事務局にお願いして、後半からは大分よくなりましたが、我々は達成度評価をするわけであって、達成度のベースになった目標を書かないで、達成度を書いてくるというのが3割くらいありました。とんでもない話だと私は申し上げたが、こういうものは評価の対象にもならない。そういうのはほとんど評価しないで0点でも構わないと思います。事前目標なしで達成度を自己評価するようなことは、今年度は絶対させないようにしてください。議論するだけ時間の無駄になる。こういう数値目標あるいは定性目標があって、22年度はここまでできた、だから我々は「a」です、「b」ですと必ず書かせてください。このことは事務局に強くお願いしたいと思えます。

#### ○事務局

おっしゃるとおりで、昨年度は途中で一覧表を追加したので、今年度は、実はお手元にある厚い個別シートにも、総括表にも、22年度の主な目標と実績を対比する欄をつくりまして、何に対して何ができたかというのをわかるようにしてあります。

#### ○延原委員

抜けが無いように事務局できちんとしておいてください。

#### ○事務局

質的な部分については、いろいろご議論があるかと思えますが、少なくとも書いてないということはないようにしております。

#### ○延原委員

少し話が飛びますが、去年139もの評価項目があって、廣瀬委員長はじめ、委員もほとんど議論もしてない、これで評価になっているのかという話がありました。今年は64事業に絞り込んでいますが、それでも8回で64事業は結構ハードなことだから、今日の1回目によくコンセンサスを委員の間でとっておかないと、64事業に絞り込んだとしても8回ではとても評価しきれないだろうと思えます。



それと、去年、私は本来やってはいけないのでしょけれども、ベースになっている目標があまりにも低すぎるので、マニフェストを達成したといっても減点をしました。そういうことは、本来はこの委員会ではできないのですが、多少は議論しておかないといけないと思います。我々は市民として税を納め、皆さんを雇用している立場の人間です。ある意味市民というのは市のオーナーです。従って、マニフェストのレベルというものの議論はある程度はしないといけないと思います。それは事務局もよく考えていただきたいと思います。去年やらせてもらったのコメントはそんなところですね。

#### ○福崎委員

その点について、私も目標がどこに設定されているか、正しく、明確に設定されているかどうかは、評価をする側としてすごく大事なことだと思います。その点で、例えば、この数値での評価になると思うのですが、目標自体の妥当性、例えば、今挙げていただいたような低すぎる目標であった場合、また逆にあまりにも高すぎて絶対に4年間では達成できないだろうというような目標があった場合に、それについてはっきりとコメント欄に書くことも可能だと思うのですが、コメント欄にはできれば提案とか詳しい内容を載せられればと思うので、一つ項目を増やしてもいいのではないかなと思うのですが。

#### ○廣瀬委員長

それは、目標の妥当性というような欄をとということですか。

#### ○福崎委員

目標に対する評価という形で。あくまで目標の設定が行政の方たちによってされていると思うので、こういった事業に取り組んでいます、その事業に対してこのような目標設定をしましたという形で資料がきていると思うのですが、その目標が私たちの目から見て適切であるかどうかということも一つ項目として、数値なり何なり、わかるようにした方が、その後の記録、経年変化を見ていきたいという点もあるかと思うのですが、それよりもよりレベルの高い政策を立てていくという意味では重要なポイントではないかなと思います。

#### ○廣瀬委員長

例えば、目標設定の妥当性のような項目を一つ設けて、達成度については、例えば易しいと思った目標について、達成されていけば達成されていると評価するけれども、目標設定の妥当性の欄ではやや甘い設定ではないかというようなことが表現できるようにということですね。

#### ○福崎委員

そうですね。数字を変えて、「優、良、不」みたいな形で見ても分かりやすいかと。

#### ○木島委員

目標がいいか悪いかというのは、先程から皆さんおっしゃっていますが、ここで本来議論することではないのではないかなと思うのですが。こういう言い方が正しいかわからないですが、市長が選挙で評価を受けるというか、既に受けてきたものかと思っています。

確かに、先程おっしゃられた中で評価が難しい、目標があまりにも具体的ではないものに関しては何かメッセージを投げた方がいいかなと思ってはいます。ただやりますというだけで具体的にどこまでやるかわからない、やりましたというだけで 目標に対してどこまでできたかはわからない、というのがいくつかあったので。ただちょっと目標を評価するというところまではどうかと。

### ○栗原委員

去年も大分ハードだったのですが、延原さんがおっしゃるとおり、たぶん今年も時間的にそれなりにハードになると思うので、やはりドライに進めるところはドライに進めるべきだと思うのです。皆さん先程からおっしゃっているように、ここは評価をするところで、目標が高かろうが低かろうが達成できていればそれでいいのでしょうし、だめならばだめだという評価をする。それにプラス重要度にかわるような、去年あまり重要度っていう項目は言葉の割にはどれくらいの意味があるのかなと実際やっていて疑問に思ったので、重要度評価に替わってもう一つ何か、コメントでも何でもいいのですけれども、それを皆さんでまず進める上でこういう項目がありますので皆さん達成度はいかがですかというコンセンサスをとって、その上でそれに対するコメントは皆さんどうですかというようにやるくらいが限界ではないかと思うのです。あまり項目を増やしていくと、どこかで自分たちの首を絞めてしまう。そうすると評価の質もどんどん落ちてしまうのではないかと、そういうのを考えると、その辺は本来のものからせいぜいプラスアルファを一つくらいやった方がいいのかなと思います。

### ○三浦委員

やはり、評価基準と達成度のところが議論になって気にはなるのですが、例えば条例宣言などで議会否決されたものがあつたりしますが、目標設定そのものに去年はわりと自由に意見を言うことが雰囲気的に許されて、コメントにも残ったと思うのですけれども、2回、3回と年度を進めていくと、議会でも議論されて、ある施策については達成目標とか予算付けとか論議されていると思うので、あまり数字の目標がそもそも正しいか正しくないかというのをここが言うのは、徐々にふさわしくなくなっていくかなと。つまり、長いスパンの計画で目標を掲げていても、だんだん狂っていくところもあるでしょうし、時間の変化もあるでしょうし。むしろ今年評価するのは、22年度の単年度の目標をどうしてそういう目標にしたのか。今初めてテーブル上でこの未定稿を見させていただいたのですが、22年度評価ということで数字が入っているものは確かに入っているなど。それに合わせて予定どおりとか予定以上にとかあるのですが、その数値目標は何ゆえにその数値目標になったのかというのが、評価する上で知りたい。私たちが提言した昨年の評価報告書にコメントがあつたからできた、できないではなく、それ以外の要素があつて、政策的に数値を決めるというプロセスがあつたと思うので、今年評価するための数値目標はなぜ決まったのか。去年はあまりそれがわからずに、とりあえず目標がこうだからということで評価をつけました。やはり1年目だからそれでいいかなと思ったけれども。評価が2サイクルで来年も再来年もかと、単年度評価でなぜ決まって

いるのか私は知りたい。

### ○延原委員

去年、私も全く同じ疑問を持ち、この数値目標の根拠を教えてくださいという質問状を出して、回答をもらっている。その回答内容を見てもあまりにもレベルが低いとマイナスにしていました。目標のバックグラウンドを知りたい。それは各委員も気がいたら質問しなければいけないと思う。背景を知った上でないと本当の正しい評価はできない。たぶん去年10項目近くにわたり目標設定の根拠を説明するよう質問を投げかけていると思う。

### ○福崎委員

私は、その根拠を知りたいということについて、重要だと思うのですが、先程、栗原委員が挙げてらっしゃったようなドライに進めるという点に立ったときに、目標の根拠にかかわらずというフレーズでおっしゃっていたかと思うのですが、提示されている目標がそのように設置されているということからスタートした方がいいと思うのですよ。この目標をなぜ設置したのですかという方向に議論を進めると、30分でも1時間でもあつという間に時間が過ぎてしまうと思うのですね。なので、この目標が設置されていますとしておいて、取組をするのは結局のところ行政の方たちなので、行政の方たちがご自身で立てられた目標に対してどの程度行動を起こしていたかという点に、私たちは時間をかけて評価すべきだと思うのですよ。ただ私もその目標の根拠を知りたいし、実際に妥当な点数をつけていくのに重要だと思うので、延原委員が提案していただいたみたいに一覧表のような形で、資料としていただければその場で質問を投げかけて、その場で口頭で時間を使って回答をもらうよりも、資料としてもらって皆さんで読んできて、実際に私たちの言葉で議論するのに使えていけるようにしたら、時間の節約にもなって、根拠のことも知れて、もう少しレベルの高い議論になるのではないかと思います、いかがでしょうか。

### ○延原委員

全く賛成です。私は、会議の前に質問状を出して、回答をもらって臨むようにしていましたが、その場で質問を多く繰り返していたら、64事業を8回ぐらいで評価しきれないと思います。

### ○廣瀬委員長

さらに言えば、その場で出しても回答が所管から返せないというのがおそらくある。それ自体がまた問題だし、そのやりとりを事前にやっておくことによって、適切な成果目標をもった上で取り組んでいただけるようになっていくと。成果目標ではなく、アウトプット、どれだけの活動をするかというところだけで目標設定をされがちなところもありますので、このプランそのものも事業によっては当然、当面の目標としてアウトプットで表記せざるを得ない部分はたくさんありますから、それを前提に評価することは、必然といえば必然なのですが、そうは言っても、このアウトプットでいいというのは根拠があるのか、どうしても疑問だと、そのアウトプットに対する評価だけで十分評価できているのかというのが確信が持てませんので、当然事前に何でこうなっているのか、というやりとりが出てくるということだと思います。

## ○延原委員

私はリタイア組だから夜中遅くまで起きていても平気ですが、事務局の関野さんからの返信は、23時とか24時くらいになってもきます。ご努力を褒めておきます。

## ○栗原委員

自分でドライにやった方がいいと言っておきながら、結局実はこういった評価報告書みたいな冊子ができて、一般の方が見るのは達成度とか数字のところ、大体深読みしないと思う。例えば、すごく低い目標に対して達成できたから仮に「a」がつかましたと、それに対してはみんなすごく良い印象を皆さんが持たれると思う。でも、実際その「a」の裏にはこうしたことがあるというのは、やはり皆さんの目に触れるようにしないと、きちんとした正しい評価にはならないと思って、そういった面もあるので、先程の発言は若干訂正させていただきます。

## ○延原委員

栗原さん、去年の発表のときに、達成度はいいけれども、危機管理体制がなっていないと発言していましたね。あれが大事なのではないですか。今年はどこかに目標の高低などを評価しておかないと正しい評価にならないのでは。達成度「a」で10点だが、目標のここが不足しているとか、あるいは達成度「b」で評価は良くはないが、これは絶対評価的にはよく出来ているのではないかとかがあっても構わないと思う。

## ○栗原委員

その指標として、さっきの「優・良・不」はわかりやすいかもしれませんが、果たしてそれで割り切れるものかというのがありますし、コメントにしたら結局またそれは文章になってしまうので、なかなかそこまで目が届かないのかなというのがあります。できた後のことも考えないといけないのかなと、2年目に関してはそう思います。

## ○廣瀬委員長

基本がその設定された目標に対する達成度ということで評価をしていく。これをぶれさせると、そもそもこれが何の評価かということ自体がわからなくなってしまいます。それをまず基本とすべきだと。これについては、共通了解ということでもいいのかと思います。その目標の設定が根拠がわかりにくいものの中にはある。それから、その設定の水準そのものが易しすぎるのではないか、あるいは、逆はあまり記憶の上ではなかったと思いますが、あまりにも非現実的で難しいことを設定されていて、そもそもできるわけがないではないかというものが仮にあったとすれば、それは掲げてしまったのだから、強いて評価されても仕方がないかと思いはしますが、そこについての評価と。その設定そのものについての何らかの言及が必要な要素というのは理解もできるころでもあり、皆さんから出されている。具体的にそれをどう表現するか、もう一つは全部についてそれをやろうとすると、果たして本当に的確にできるかどうか。おそらく139のうち、10数項目とかそれくらいのレベルで、あるいは20数項目で理解できにくいとか、理解度が低いとか問いただしたいというのが

出てくるかもしれませんが、それ以外について言うと、相対的に頑張っただけで2年目くらいにかなりできてしまったから易しかったのではないかと、結果から逆に類推をしてしまう恐れもある。全部について、目標設定の仕方についての難易度が難しすぎた、易しすぎた、適正だったというのをつけていくのが、果たして現実的に可能かどうか、「a・b・c」の適切な評価ができるかどうかという、ちょっと難しいような印象もありました。

### ○福崎委員

この点に関して、次のヒアリング対象事業の絞込みに関わってくるかと思うのですが、例えば、139事業のうち、特に市民にとって、これもちょっと難しいとは思いますが、市民にとって重要な課題である、もしくは4年間のうちで成果を市民の皆さんにお伝えしたい事業であるという項目を、例えば、今挙げていただいた数字のような10事業とかを出して、それについてある程度細かな数値評価を出して、あとは10段階評価だけというような形でさらっと短時間の議論をするというのも一つのやり方かなと思うのですが、いかがでしょうか。

例えば、市民評価報告書を見る側にとって質の良い報告書というのが数値とか短いコメントではなくて、具体的な内容だと思うのですが、でも139全部についてそれをやることはできない。私たち評価委員会が選んだ10重点事業というような形で細部に渡って検討をしましたということも、もちろん見た市民の方が何でこの10事業なんだと不満を感じる方がいらっしゃると思うのですが、それでもやはり私はこの事業に対して重要だと思う。こういう視点で皆さん議論されているのだと、一部質の高い報告も見られる、また全体に満遍なく包括的な議論もされている。両方の情報を与えられるかと思うのですが、いかがでしょうか。

### ○廣瀬委員長

それは、最終報告の段階での、去年については章立てごとに総括をしつつ、特によかったものについてはもう少し踏み込んだけれども、基本的に一覧表ですね。その要素も必要だけれども、重点何項目かについてはもっと定性的な、質的なところまで踏み込んで、読んでしっかり理解できるような評価をしたいということでしょうか。

### ○福崎委員

はい。例えばコメントも、10事業に関してはもう少したくさん掲載するか、数値の項目も、先程挙げたような目標の「優・良・可」といったようないくつか項目を5つぐらい挙げて、達成度、目標の妥当性、あと何か、何か、何か、みたいにくつか種類を増やしてみるとか、格差をつけるような形で、質の点を上げる。10項目に絞る分、内容の濃い議論ができるような視点もあるかと思うのです。ただそれについては絞込みが必要だと思うので、それについては委員の中で意見が分かれてしまうと、時間を逆に無駄に使うかという恐れはありますが。

### ○栗原委員

その目標云々というところで、委員長が心配されることがすごく正しいと思

って、全部にやってしまうと果たしていいのか悪いのかがあるので、それができるかどうかわかりませんが、先に一覧表で目標云々の妥当性というか、そういう一覧表をもらって、それだけ切り離して一度全部検討するというのはどうですか。その中で、これは明らかにおかしいでしょうというものをピックアップして、それについて説明を求めるなり何なりしてという方法はとれないでしょうか。やはり分けてしまうとそれはおかしくなってしまうものですかね。

### ○三浦委員

私も似たようなことを考えまして、入り口のところからあまり精密に評価の仕組みをつくり込まずに、去年、一応工夫しながらやったので、なるべく事務局の提案を踏まえながら、さっとやっておいて、評価の発表の準備も去年は足らなかつたと思うので、後ろに2回くらい余裕を持っておいて、ここはもう少し深掘りすべきだったというのを、もう一度深掘り評価をするような、それで報告書をつくるような工程を今、議論を聞いてて思いました。

### ○栗原委員

もし、10個とかそういったものをピックアップして、やはり市民の皆さんに対してこれはちょっとやばいんじゃないですかというのを伝えなければいけないのであれば、報告書の最初の方に第3位とか第2位とかの項目があるので、そういった項目をつくっていただいて、評価委員で達成度とは別に検討した結果、妥当性に欠けるのではないかとといったものをここでコメントとして載せれば、頭の方などで皆さんの目にとまると思うのですよね。そういった方法もとれるのかなと思います。

### ○猪野委員

一つ思うのは、例えば10としたときに、139分の10となると、各々の委員の思うところはばらばらになっていくと思うのですが、そういったところがかぶったものだけをチョイスするのか、それとも、分布をつくって分布の集中しているような項目を選ぶのか、そこら辺がちょっと難しくなってくるかなとは思うところです。

### ○三浦委員

それも考慮して、あまり最初に振り分けをせずに、振り分けてどれを残しますという議論をするとそれに時間がかかってしまう気がするし、僕は割と面倒くさがりなので、次の評価の順番が来たのしかちゃんと見ない傾向がありまして、最初に全部見てどれが重要か判断するのはしんどい気がするのですね。

### ○野崎委員

三浦委員の話、私も確かに、今日のやっている中で感じたのですよね。6回今年この後委員会が予定されていると思いますが、この委員会を重ねる中でポイントポイントで、これに関してどうなのだろう、去年議論でもめた案件とかもあるではないですか、そういうのをピックアップして、この8回、9回というところで総括して、重点的に最後議論したものをプラスアルファで、ダイジェストではないですけども、掲載するという考え方もどうかと思うし、委員会をやっている中で波があるではないですか、この項目に関してはどうだろうとか、参加していく中で重点的なポイントポイントが会議の中で何箇所かあり

ますので、そこを最後総括して、皆さんでご議論して、重点的にその2回の中で集約していくというのは提案としていかがでしょうか。

### ○福崎委員

野崎委員の提案は、私もすごくいいと思います。日程の使い方だと思うのですが、全8回をどういう内容で使っていくか、私たちの中でも共通の考え方は必要だと思うので、例えばその8、9回には取りまとめとだけ書いてありますが、それまでの6回の話し合いの中で浮かび上がってきた重要だと思う事業について、8、9回でもっと細部に渡って評価していきましようということ、また発表のために評価項目を少し増やして、市民の方に見やすく、一目でこういった点について話し合ってきたのか、こういうことを評価委員会のメンバーは気にかかったのかということがわかるような形くらい、ある程度の細部の報告をつくれるように、この8、9回を行いましようというのもすごくいいと思います。それを目標にして、頭におさえた上で、その前の6回をやれば、ある程度さらっと行うところはさらっと、後回しにしましようって流すこともできると思います。

### ○廣瀬委員長

それでは、ある程度方向が浮かび上がってきたかと思いますが、まず基本的に経年の変化も見っていく必要があるし、進捗評価というこの委員会が評価をする基本がありますので、達成度としての評価をまずざっと、ただ、去年と同じように1項目ずつ全部同じ比重というよりは、事務局としてはこの選択については案と理解しておりますが、ヒアリングを行いつつやるものは昨年よりも絞り込んで、また、1事業ずつというよりは枝番などについてはくくって、統一した観点でヒアリングを行いながら、全体を通して見ていく。さほど内部評価そのものが我々から見ても妥当にできていると思えるものについては、基本的には議論をせず、ペーパーで出していただいた評価で、あるいは前回も項目によってはほぼ全員の評価が揃っているというのがありましたが、そういうものについてはそれで確定をしていく。

他方で、目標設定の妥当性はどうかとか、もう少し質的に重要度が高いものだから、内容に踏み込んだ議論をして評価報告書の中でも大きく取り上げた方がいいのではないかと、こういう観点で踏み込むべきものについては、全体を通して見ていく中で、ある程度絞り込んだ上で、その時間は後に回す。ということで、8回、9回と後に予定しているところに回しながら、まず8月30日まで、第7回まで予定してあるところを目途に全体をまず先に通していく。

そのプロセスでないと、1回に20項目ずつくらいやっていくことになりませんが、20項目ずつくらいに分けて見ないと、一気に139の中からどれがいいかは現実性がないと思います。その通す中でひっかかったものを各回の中で議論にのせて、そこでこれは深堀りをするということになったものをそこで一度打ち止めて先に送った上で全体を通してみる。そうした進め方になるのかなと思いますが、いかがでしょうか。それでも過重ですかね。

### ○延原委員

それで委員長がやり切れる自信があればお任せします。委員長の腕次第です。

## ○長野委員長職務代理

昨年度、我々は達成度評価と重要度評価の二つの項目について、1回達成度についてこれでよろしいですかとご発言を振り、さらに重要度のコメントの補足などありますかと、2巡目をするということをやってきました。

今回、一つ反省としては、早く評価結果を原課、原局に戻して、予算編成する時期に入ってくるので、フィードバックとして使ってもらわないといけないのではないかと議論が昨年度あったのですし、早く評価結果を届けるというのも大事だろうと考えてくると、先ほどの栗原さんのご提案で、重要度評価のコメント欄は飛ばしてしまって、達成度評価についてさっとやって、その中で気になる点があれば、メモをするというのでしょうか、資料4-3でいえば、コメント欄がありますが、これを質的なことについてメモしていく欄に使う感じに変更する、そうではないと少し難しいのではと思います。特に気付きや発見、目標自体に合理性がないことがわかったなど、ここでデータベースとして蓄積していった、それを事務局の方にもう1度リライトしていただいて、ファクトシートというような形でどんどん溜めていっていただくということに少し変えないと、前回はタイトだったので難しいかなというのが正直なところで

## ○事務局

昨年度は、確かに一通り評価をしていただいて、それがそのまま報告書になった、日程上、相当ご無理をお願いしてまとめていただいたという状態でありましたので、今回ご提案させていただいている感じで進めば、評価は評価としてやっていただいて、それから最終の報告書の取りまとめ、報告会に向けてもうワンステップ、例えば先程の議論で申しますと、昨年確かに目標が低すぎるというコメントはいっぱいありましたが、それはコメントとして報告書に入れただけで、評価自体は「b」の7点がついていたりするので、例えば一度やっていただいた中で、最後報告書をつくる時に目標が低いならばそれがわかるように点数は点数として別に欄をつけるというのは、間をおけばそういう形もできるかと思えます。

もう一つのやり方は初めから見っていくときに4-3にもう一つ欄をつけて、全部通して評価するというやり方も先程の議論の中であったかと思えます。それはそれでやり方としてあるかと思えますが、今の資料で4-3を埋めていくのは委員の皆さんに相当なご負担、手間になると思いますので、その辺は、今年はスケジュール上、報告書をまとめるところで事務局の方で工夫させていただいて、この評価委員会での議論が報告書、報告会でもう少しクリアに、ご覧になる市民の皆様方に伝わるようにできればと思います。

## ○延原委員

事務局に質問しますが、市長マニフェストは厳然と存在するが、清水市長が当選し2年経ち、この間に情勢が変わり、この中から抜いてしまっている項目はないですか。例えば、先週の新聞記事で、新都心にさいたま赤十字病院と小児医療センターを移転することを県と合意したと書いてあった。そうすると、しあわせ倍増プランに書いてあるマニフェストは修正しないとだめですよ。



小児医療のこととか、救急医療のこととか、プランに書いてあるものは今回の新聞記事と内容が異なるわけですから。あるいは条例で何か変わってしまったとか、評価項目から削除できるものはないのですか。私はそういう項目があっても構わないと思います。

#### ○事務局

例の中でありました、例えば8-1A街区については、サッカープラザを白紙撤回しますというのが市長のマニフェストにありましたが、その話自体は初年度で終わってしまっていて、その後の話を検討しますというのが2年目にあったものですから、2年目までは評価をしています。多分、今回の話があれば3年目はここからは完全に落ちることになります。実は137項目と申し上げていますが、完全に2項目抜いているのは市長の退職手当、これは条例でもう決めましたので、これは完全に落としている。項目として落とすものは多分にあると思っていますが、2年度目のところは市長が当選してから1年ちょっとくらいの部分も平成22年度の中には含まれていると思いますので、今の時点で完全に抜いたのは2項目だけで、来年度はもう少し抜ける項目が増えるかなと。

#### ○延原委員

23年度にやらないことをもう決めてしまったものを評価しても仕方ないと思うのです。事務局は評価してほしいかもしれないけど、時間をかけてやる価値がないと思います。小児医療センターとさいたま日赤を新都心駅前にもってくる関連で言うと、25-1、2の項目は現実的に存在しえない目標に変わってしまっているわけです。しかも、新しい病院の建築計画まで既に発表されてしまっている。

#### ○事務局

それは、これから話を進めますという段階です。

#### ○延原委員

それだったら、新しい目標に対して現在の目標は明確に変わりますよね。これは一例ですが、評価対象が大幅に変わるのなら、チェックして、外すものは外してくださいねと言っているだけです。目標が明確に変わってしまっているが、過去の評価だからやってくれてと言われても、そんなのもう評価しなくてもよろしいと思う。

#### ○廣瀬委員長

昨年度には、まだ当初の目標に向かって仕事をされていた。だけれども、例えば今年度に入って急展開、あるいは新しい情勢が出てきて、実質的には目標は別の形で実現されることが決まったので、前の目標設定でやる意味が薄れた、あるいは失われた、違う形に切り替わったものについては、内部評価のまま受け取るくらいのことでのこの委員会としては十分なんだろうと直感的に思います。

#### ○事務局

先程、延原委員よりご指摘のありましたように、外部評価自体を省略すると、内部評価まで終わった段階で打ち止めにするという方法は、今回たたき台をつくらせていただいた中では、先程申しあげましたように2項目だけ完全に抜いたのがありますが、そこはもう一度そういう目で確認するということは、我々

にできるかと思います。それほど多いわけではないと思います。目標の数値自体は、当然いろいろご議論があると思いますが、そもそも目標自体がいないのではというのはいくつか限られたもの、プロジェクト関係でいくつかあるかどうかという感じでしょうか。

### ○延原委員

廣瀬先生が指摘された去年の委員会の議論の難しさの中に、類似項目を全く異なる3つも4つもの所管がやっている。それを多くの委員から指摘を受けていました。今年は、役人の方はきちんとまとめられたかもしれない。そうすると項目が減っていくかもしれない。それはいいことです。そういうのがあれば、ちゃんと提示していただければ結構ですよと言っているのです。

### ○福崎委員

私も、例えば、委員長が挙げてらっしゃった、内部評価で打ち止めにするという案はすごくいいと思います。もう既に、137項目については内部評価が終わっていることで、数値は出ていると思うのです。ただ、23年度に影響しないもの、23年度に引き続き同じような内容で事業は行わないようなものに関しては、私たち市民の代表としてやる評価委員会として時間を使って評価する価値というか、重要度は低いと思うので、時間の節約という点でもいいし、また、例えば評価報告書に内部評価だけあって、外部評価が空欄っていうのも、また一つ目安になると思う。見る側のために、これは23年度はやらないとか、何か理由は添えてあった方が分かりやすいと思うのですけれども。今の指摘があったみたいに、私たちの評価項目を減らすという意味でも、23年度に影響しない事業、また私たちが23年度のために評価するっていう視点から除いてもいい事業があれば少し選んでもらってもいいかなと。

### ○廣瀬委員長

ただ、そんなに多く期待してもいけないと思います。いくつかはあるのではないかという感触はありますが。

もう一つは、先程長野委員から出た、重要度評価を去年と同じようにやるのかということですが、昨年のことについてのいくつかの言及の中でも、質的なコメントが重要度評価へのコメントとして出ていたということはありませんでしたが、一応重要度については「A・B・C」をつけておりましたが、そしてそれがどう分布したかについてパーセンテージで出しているのですが、あまりそれについての言及はなかった。マイナスの言及はなかったけれども、プラスの言及も特になかったという印象ですけれども、それを改めてやるのか、それとも長野委員のご提案のように重要度という項目ではなく、進捗評価をしてみたところで、進捗評価の枠にはまらにくけれど少しコメントとして残しておきたいということは、おそらく多くの委員にそれなりの数が出てくるのではないかと。昨年の感触ではそういう印象があります。重要度評価、あるいは重要度という項目の立て方はやめてしまって、しかし進捗コメントということではない形のコメントが必要な要素がある。そういう理解の上でのコメント欄に単純化するというご提案ですけれども、いかがでしょうか。

(意義なし、賛成の声)

そうしますと、基本的には進捗評価をまずドライに進めながら、単にドライに済ませられないものについて、ずっと眺めながらチェックをしていって、そこについての深堀りというのは、一番深く掘るものについていうと、8回目、9回目のところでやり、報告書の中にもその質的に注目したものについての重点的な評価を最終のアウトプットに向けて練っていくことを、当面念頭において、まずは進捗をざっと見ていくということで進めていくという方針でよろしいでしょうか。

**○木島委員**

すみません。確認ですが、絞込みはやらずにということでしょうか。

**○廣瀬委員長**

そこについては、この次の段階で確認をしていきます。

**○木島委員**

先程の重要度のところで、去年の方々も言われていたので、そこは問題ないと思いますが、絞込みの一つの要件が重要度になってくるのではないかと思ったので、そこと関連しなければいいかなと思ったのですが。

**○廣瀬委員長**

ヒアリング対象事業をどうするかということについては、今日の議論の中で浮かび上がってきたのは、各回で何についてヒアリングをするかということよりも、もっと重く評価の対象にしなければいけないものを、今申し上げましたように、ざっと全体の進捗評価を見ていく中で絞込みましようということであったかという提案であります。

他方で、各2回目から7回目の6回にわたることを、昨年のように全部についてヒアリングすることは相当な労力でもあるし、また労力の効率的な使い方ではないような気がしますので、書類の上だけで確認をして先へ進むものと、ヒアリングをしながら議論をした上で進捗評価を行うものと区分けする必要があるのではないかというのが、事務局から今日提案されている。それをどんな形で絞り込んで、どれくらいの項目をやりますかというのを確認するのが今日の課題です。

**○三浦委員**

ヒアリングに関してですが、昨年度の経験で言うと、行政側が用意した資料で我々が理解できるかどうかというのが、ヒアリングの結果やりとりで追加の資料を求めたりしましたので、仮にヒアリング事業は決めて、当日この会議の場に担当の方にいてもらうやり方をするとして、最後の方でもう1回確認しましょうというときに、改めてヒアリングをお願いする可能性はいかがでしょう。ヒアリング対象でなかった事業に対してこの資料を使う、もしくはヒアリングをしたけれども、もうちょっと聞いてみたいという時に使うのでは。

**○栗原委員**

私も同じですが、このシートをこのまま使うかどうかはわかりませんが、ヒアリング追加候補ってというのがあって、わかりづらいかなど。これは多分先に出してきてくださいってということだと思っておりますが、そういうわけではないのですか。

## ○廣瀬委員長

おそらく事務局からの提案としては、次回の段階で、次々回についての追加ヒアリング候補をこちらから出して、それを参考にして、次回3回目に予定している行財政改革の後半から子どもあたりのエリアの中で、この項目はヒアリングをした方がいいというものを我々が次回までに選んでおいて、それを踏まえて次回の委員会の場で、3回目はこの項目を呼びましょうという確認をする。そんなことかなと思います。

## ○栗原委員

事前にそれでわかればいいのですが、さっきの話みたいに、やっていてやはりこれきちんと聞いた方がいいかなってというのが絶対出てくると思うので、最後の時点でも呼べるような形にさせていただければ。

## ○廣瀬委員長

それは、当然8、9回目は必要に応じて、いくつかの項目についてはお呼びすることはあり得る話だと思います。

## ○延原委員

予備日が何日かありますね。

## ○事務局

第7回と8回間に1日入れていますし、取りまとめのときにそういうご議論があれば、所管課のヒアリングもできると思います。

## ○廣瀬委員長

今回は、3段階くらいの重み付けを想定しているという整理ですね。つまり、ヒアリングを2回目以降あまりしないで書類で確定するという重みのものと、ヒアリングをした上で確定する重みのものと、ヒアリングまでのプロセスを経て、さらに深堀りが必要だという最重点項目は7回目が終わった後で改めてやる。この3段階を想定しようかと思います。

次に、1段階目と2段階目の振り分けと、それについての評価のための資料をどこまで用意をお願いするかということを確認する必要があります。前回については、この厚い未定稿になっている内部評価のシートに加えて、それぞれの項目の判断材料になるような資料を各回の前の回くらいまでに用意いただいて、それを見ながら、さらにそれを見てもわからないことがあれば事前に質問をした上で各回に臨みました。

20なら20ぐらい用意いただいて、その中で各項目についてお答えいただけるように、所管課にも控えていただきましたし、資料もいただきました。これ以外の資料を全部についても見るか、それともいくつか項目を絞りこんでそこまで見るものと、おおむね内部評価で初年度も済んでいるし、2年度目も内部評価を見る限りはそれほど問題がなさそうなので、基本的にはこのシートで、書類の上で評価してヒアリングを行わず、疑義がなければそれで進めるというやり方でよいかどうか。

もちろん、これは時間と労力を費やさなければいけませんけれども、ホームページ等にも情報が出ているものもありますから、内部評価のシートだけではなく、そういう調べ方は可能ではありますが、労力はかかります。なので、そ

こまではいいかなと思えば、このシートだけでやっていくというふうに割り切る。

他方で、それでは割り切れないだろうというか、もう少しきちんと確認をしながら評価した方がいいだろうという項目を、この事務局案でいうと各回、枝分かれしているものはありますが、3ないし4項目ずつくらいは聞いていこうという想定での資料5の提案になっていると思います。

### ○延原委員

家で読んでいる時、やはりこれだけでは足りなくて添付された資料は大事だったです。事務局には負担かもしれませんがコピーを送ってもらえるとありがたい。あれを読み込んでわからない項目は、10のうちの1～2割程度で、本当にわからなければ質問状で出しますから。

### ○廣瀬委員長

確かに、大体資料を読んでいくことで感触をつかんで、あとで私の場合ですと、この評価シートより先に資料をざっと見て、あっているなどと思えばそのまま基本的によく、ちょっと違うのではないかと思うもの、資料を見てわかりにくい面があったりしたことについてはやりとりをしたということでもあります。

それでは、基本的には参考資料があった方が内部評価シートそのものがわかりやすいということでもありますので、事務局にお手数おかけしますが、昨年同様に各項目について、ある程度中身をもう少し細かい情報を次の回に向けてカバーしていけるエリアについては順次ご準備していただくということに。

### ○事務局

昨年ベースの所管部局のものは全て事務局でご用意、お送りをさせていただいて、当然それでは足りないということもありますでしょうから、またレスポンスいただいていると思っております。個別評価シートは今回、全部137枚ご準備させていただきましたけれども、参考資料につきましては順繰り順繰りご用意させていただきます。

### ○廣瀬委員長

では、評価の方法と基本的な進め方については、確認したということによろしいでしょうか。ただ、2回目についてという即、次回ですので、これについてのヒアリングを行うもの、ここでは事務局の資料5では「ノーマライゼーション条例」、「行財政改革推進チームの設置」、これについては1-1から1-5の5事業をくくったもの、それから「全ての窓口業務を区役所で」というこの3項目についてはヒアリングの対象にしましょうと、それからそれ以外のものについては書類審査でやっていきましょう、という提案ということになるかと思えます。とりあえず、今回はこの素案のとおりで進めるということによいでしょうか。

それから、次の次で想定されている「子ども」の項目についてまで、これは枝番を含めてで言うと、相当先まで、このシートで言うと15ページ、事業番号で言うと30番までになりますけれども、あとは番号9-1から30までの範囲の中でどれをヒアリングにかけるかということについては、事務局からの提案としては「情報公開日本一」、「児童虐待ゼロ」、それから「児童虐待ゼロ

に関する職員の体制」の話と「待機児童ゼロプロジェクト」ということでの提案になってはいますが、それでいいかどうかの確認と、これ以外でヒアリングをこちらのほうがいいというものがありましたら、それについて次回までに腹案をご用意いただきたい、ということでしょうか。

**○三浦委員**

ちょっと表の見方なのですからけれども、このA3版のものは、一固まりにしてヒアリング対象とするというふうな印がついているように見えるのですが、次回ですと、対象事業はⅡ-3それから事業番号1-1から1-5の5事業、これは一くくりにして、ヒアリング対象とすると、それから2-1から2-4まで一くくりにしてヒアリング対象としてやると印がついているように見えるのですが。とすると次回は全事業がヒアリング対象ということでしょうか。

**○廣瀬委員長**

いや、例えば条例でいうとヒアリング対象でない条例もいくつもあるということになろうかと思えます。

**○事務局**

行革のところでは言いますと、結局1番2番に二重丸がついておりますので、1-1から1-5までと2-1から2-4までをトータルでやるということで、それから結局、ここは各項目の中に個別の項目になってはいますが、結局トータルとして行革に関して22年度何をやったかということになります。

**○三浦委員**

すみません、言い方を変えます。6月24日に評価するのは資料5にあるローマライゼーション条例と行革の推進チームの設置とすべての窓口業務を区役所での10事業ということでしょうか。

**○事務局**

評価対象という意味で言いますと、事前に点数をつけていただくのは1-1から行革の前半までとその上でヒアリングをしていただいた上でその議論をし、評価を確定させていただくと。

**○三浦委員**

ごめんなさい。見方が違うようで結局、130いくつかの事業を評価するのだけれども、資料5に書いてあるのがヒアリング対象事業ということですか。

**○廣瀬委員長**

そうです。書類でもって外部評価として評価するのはローマ数字Ⅰ-1から始まって、行革の前の枝番の2-4までということになりますでしょうか。その中でヒアリングを行うものはここに挙げた3項目のヒアリングで事業としてのカバーでいうと10の事業をカバーできるということになります。

**○福崎委員**

私、逆にわからなくなりましたのですけれども、次回は1から2までだとすると、その次の2から9までの分、その次が9から24までだとすると3から8というのはどうなっているのか、ヒアリング対象ではないということでしょうか。

**○事務局**

ですから、委員のご指摘のとおり行革の前半と後半とで、どこかで区切るのかということだと思っております。

#### ○廣瀬委員長

2-4まで6月24日にやるとして、7月8日に3から次のヒアリング対象9-1から9-6についてまでの情報公開と、3から8-2までをどうするかということですね。これは3回目に向けて見ていただく案と理解していますが、こっこの日程の割り振りがヒアリング対象のみしか載っていないので、ヒアリング対象でないものをどう区切ってやっていくのかというものをリストアップした一覧表を事務局でご用意していただけますか。

#### ○事務局

この場で恐縮なのですが、今の話ですと、ヒアリングの第3回目の項目ですが、カバーする範囲が多くなりますので、できれば行財政改革の7番目まで、資料でいうと6ページの下から2番目までですが、ここまでを一通り評価をいただいて、この中からノーマライゼーション条例、行革、区役所改革についてヒアリングをしていただく。その次が行革の中でも情報公開関係に入っていきますので、それと子どもの部分について、次回ヒアリング対象を確定していただいた上で、第3回目のときに評価をしていただくと、一通りできた形になると思います。

#### ○廣瀬委員長

それでは、それ以降についても全体の分量とそれから内容の区切りをある程度考慮した上で、この範囲をカバーしていく中で、どれをヒアリングするかということで、ヒアリングする項目ぐらひはここにある数字というか、項目に絞り込んでいくという前提で詰めていく。

#### ○事務局

次回ですが、今資料5ですとヒアリング項目だけで区切っておりますので、全項目137項目がそれぞれどのくらいカバーできるのかという資料を早急につくって委員の皆様にお送りいたしまして、要は次回の第3回でどこまでできるかということ全体をご覧いただいた上でご議論いただき決めていただくということによろしいかと思っております。

#### ○延原委員

ちょっと混乱してきまして、137事業全部評価するわけですね。ペーパー上で評価する項目とここにスタッフに来てもらって評価するのが60ぐらいあって、6月24日にはここからここまでは一旦全部評価してくださいと。そのうちスタッフ呼んでやるのはここからここまでというのをください。それでわかりますから。それからヒアリング対象については、これはたたき台として挙げていただいて、という理解で、第2回の6月24日までに第3回までのエリアの中でこれはヒアリングしたほうがよさそうだなというものを出すということで宜しいですね。それで、いつまでにどの資料を届けていただくことになるかどうかについて、事務局で確認をお願いしたいと思います。

#### ○長野委員長職務代理者

今日、委員さん皆様の議論の中で追加でお願いする資料としまして、順不同

で挙がってまいりましたが、平成22年度の目標設定の理由を一覧表にしてくださいというリクエストが一つ出てまいりました。2番目に、昨年度、各回とても分厚かったのですが、詳細な資料を政策項目ごとにつくっていただいたので、それを追加で配付していただだけませんかという意見がありました。3番目に、各回の審議対象項目の一覧を、新しい日程に合わせて埋め込んだスケジュール表をくださいというものが出てまいりました。それ以外については私のメモにはないのですが、これでよろしいでしょうか。

#### ○木島委員

2番目の資料が私にはわからないのですが、それは目標について言及しているものではない、ということよろしいのでしょうか。

#### ○長野委員長職務代理者

昨年度私どもが使わせていただいたものは、何月何日にこういう事業をした実績とか、こういうイベントをしますとか、いくらぐらいの公共事業が実施されましたといったニュースリリースの束を手元にいただきました。

#### ○事務局

個別評価シートはA3の1枚で作っておりますので、そこに入りきらないものは補足資料を別途お送りしたということです。

#### ○廣瀬委員長

追加でお願いする資料につきましては、こんなところでよろしいでしょうか。

#### ○事務局

昨年ですと、皆さんから回答をいただくのが会議の1週間ぐらい前ということでありましたので、そういたしますと次回24日の1週間前というと17日になりますので、まず一つ今週中だと思いますが、昨年度お送りしました今年度版の補足資料の部分と全体のスケジュール表の割り振りは時間をかけずにできると思いますので、これは大丈夫かと思えます。目標の部分は本来すぐ出していかなければいけないのですが、すぐ出てくるかどうかというのが心もとないところがあります。少なくとも次回議論いただき評価していただく部分については、早急に各所管に照会をかけて取りまとめまして、ご用意させていただきたいと思えます。

#### ○廣瀬委員長

それから、提出するシートで資料の4-3のような形が今回に下案ではあるのですが、例えば重要度については変えようということになりましたので、今日の議論を踏まえて重要度のところは単純にコメントだけにいただき、追加ヒアリング項目部分についてはどうしますか。

#### ○事務局

事前に出していただくか、あるいは委員の皆さんの中で目を通して検討しておいていただいて、次回の最後に紙ではなく皆さんでご議論いただくという2種類のやり方があると思えます。

#### ○廣瀬委員長

1週間前までに次々回の分のヒアリング候補を出せというのはかなり過酷な話なので、それは当日口頭でこの場でということにしましょうか。



## ○事務局

そういたしますと、資料4-3はこの様式の中で右側の網掛けがかかっている部分ですが、達成度の評価のところと一番右側の重要度のところとをコメントだけにするという事でこの2列を置き換えたものをきちんと送付させていただきます。それに対しまして第1回目にカバーするところまでは17日までにお送りいただくようお願いいたします。

## ○廣瀬委員長

そういたしますと、第1回目カバーの分だけはできるだけ早くいただいて、6月24日の評価対象分についての我々の回答が17日中ということになります。それから次にカバーする分野でのヒアリング対象項目については24日までに選んでおいていただいて、この場で確認して次回にまた。この人数で私は何番だという話だと。当日この項目についてだけという資料は取りまとめしておいて議論したほうが手っ取り早いでしょうね。なので、例えばそれについては前日までに事務局までメールかFAXか何かでこの項目とこの項目とこの項目をヒアリング項目としたいということについては、お出しいただいてそれを集約した資料は用意していただいた上で、票がばらけた場合は少し議論をして、票が集中した場合にはこれこれがいいですねと確認して進めるとそんな形でいいですね。

## ○延原委員

3回目からですね。

## ○廣瀬委員長

3回目以降です。

## ○福崎委員

その場合、変更がないというのは、私は変更点はありませんというメールを送った方がいいですか。

## ○廣瀬委員長

資料5と同じで結構ですか、ということですか。

## ○福崎委員

意見のある場合だけメールを送ればいいのか、意見がありませんということでも人数分のメールが届いたほうがいいのか。

## ○事務局

様式を作った方がよろしければ簡単なシートみたいなものを送りますので。でなければ、ご連絡がなかったのか、問題ないと思っていただいているのかの区別がつかみませんので、私どもとしてはベタ打ちでも何でもいいですのでご連絡をいただいた方がありがたいです。

## ○延原委員

督促してください。メールを見ると忘れていたことに気づくので。いついつまでに返事をしると、去年のようにやっていただけたらありがたいです。

## ○事務局

まず、今回いくつか追加して届ける資料がありますので、まずその時、もう1回確認をさせていただいて、このシートをください、いついつまでのタイミ

ングまでにこの項目についてコメントくださいと、その他また確認させていただきたいと思えます。ご連絡のない方については、またご連絡させていただきます。

#### ○廣瀬委員長

では、そういう形で進めさせていただきたいと思えます。評価方法及び今後の進め方について、ここまでの点で疑問が残っている点、あるいは今日出しておきたいという点はよろしいでしょうか。

#### ○三浦委員

一つだけ。昨年議論をしていて、ヒアリングをでの所管課の説明では、実質的には庁内プロジェクトでやっていますといった回答がいくつかありまして、確かそれがわかるようにとリクエストしたと思うのですが。この未定稿のやつで今、関係課が列記されているが、今確認をしているのですが。

#### ○事務局

多分、抜けているものもあるかと思えますが。

#### ○三浦委員

特に目立ったのは子育て分野で、教育委員会系と子育て系で連携をとれていないような場合があつて、質問をしたところ、これはプロジェクトで連携を図ってやっています、といった回答があつた記憶があります。

#### ○事務局

ヒアリングの時にはその形に列記した形の中で、あるいは、プロジェクト自体で1枚何か資料を作らせるとか、いずれにしても、そのところは昨年議論があつたところなので、わかる形にしたいと思えます。

#### ○延原委員

誰が責任者かはっきりしてほしいのです。担当部署が5課ぐらい並んで書いてあつて、誰が責任者かさっぱりわからない。プロジェクトリーダーは誰ですかと言つても回答がない。これでは評価しようがないです。誰かが責任を持たないといけない。ということ三浦さんとか皆さんがおっしゃっている。その責任者が一人来てくれればいい、その他の人がぞろぞろ来る必要はない。

#### ○廣瀬委員長

今の点はよろしくお願ひいたします。

## 6 その他

#### ○廣瀬委員長

それでは、以上で本日予定している議題に係る協議は終了いたしました。ではその他連絡事項として何かありますでしょうか。

#### ○事務局

それでは、事務局から次第の6 その他ということで連絡申し上げます。本日は熱心なご議論ありがとうございました。事務局といたしまして宿題や確認事項が何点かございましたので、整理させていただいた上、委員さんには17日までにご返却いただく資料につきまして速やかに作成しお送りしたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

また、今後の評価作業等を行っていく上で、追加資料等のご提案やご希望がございましたら、事務局までお申し出いただきたくよろしくお願い申し上げます。事務局からの連絡事項は以上であります。

#### ○事務局

ご説明忘れておりましたけれども、委員の皆様にご意向をお伺いしたいことがございまして、現地視察についてでございます。昨年のご要望がありましてご用意させていただきましたが、昨年はお知らせが直前ということもあり、ご参加される方が残念ながら少なかったということでありましたけれども、もし今年もということでありましたら、事務局で案をつくりまして、また次回でも候補、たたき台という形でご提示させていただきたいと思っております。あまり進んでからというより早めに見ていただいたほうが評価の一助になると思っておりますが、いかがいたしましょうか。

#### ○廣瀬委員長

昨年は振り返ってみますと私と栗原さんしか参加できなかったわけでありましてけれども、現場を見たりリアリティから評価できる項目もたくさんありますので、私としては価値があるのではないかと思いますけれども。

#### ○事務局

あるいは、先ほど重点項目は後回しにして最後に絞り込むというご意見がありました。一通り各項目の評価を行っていただいた後で、やっぱりこれは現地を見て評価したいというようなことがあれば、最後取りまとめの時の前に、その項目について現地を見ていただくというやり方もあると思っております。

#### ○廣瀬委員長

ただ後半までいってしまうとかなりタイトになるような気がしますので、なるべく早く現場を見ていただいたほうがリアリティをもって評価していただければ、事務局で提案していただいて、夏前ぐらいに、遅くとも夏の間に、暑いでしょうけどもうこの後は梅雨か夏しかございませんので、評価の本体に入って行く前に見ておいた方がいいものについて、少し早めのところでセットし、できれば次回ぐらいに提案いただければ、日程調整して進められると思っております。

#### ○事務局

では、次回たたき台をご提示させていただきます。第3回か第4回の委員会前に現地を見ていただければと考えております。

#### ○廣瀬委員長

それでは申し訳ありませんが初回から30分近く超過となってしまいました。これでスタートする枠組みだけはできたと思っております。2回目以降よろしくお願い申し上げます。

## 7 閉 会

#### ○廣瀬委員長

それでは、本日はこれを持ちまして、第1回のしあわせ倍増プラン2009市民評価委員会を終了させていただきたいと思っております。本日はお疲れさまでし

た。

(この会議記録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、あいまいな語尾などを読み易く整理しています。)